囲　幹夫（ちかまる寮ハウスマスター）

ウグイスの声を聴きました。
その声で、春が巡ってきたなあと感じました。
敷地内の梅は散って、空港線の桜もつぼみが綻んできました。
年度更新を迎える留学生が昨年、初めてこの寮の前に立った日を思い出します。その日はまだまだ小学生の殻を被っていたのに、改めて彼らの成長した姿に驚きます。
この一年を様々な想いで過ごしました。

嬉しいこともあり、辛いこともあり、思春期の心に振り回されたり、悩んだりしましたが、ちかまる寮運営スタッフの皆さんの助力を頂いて、また新たな春を迎えることが出来ました。
そして4月からは新しい寮生2名をこのちかまる寮で受け入れます。
新たな頁がこの島に刻まれていくのを、また堪能していきたい思います。

ふるさと留学ってなんばしよっとね？ Vol.7

新年度となり、ふるさと留学事業は４年目を迎えます。
昨年度は、しま親留学生１名、入寮型留学生３名を受け入れていましたが、３月に２名がふるさと留学を修了し、それぞれ新しい道へ旅立ちました。
今年度は、新たに小学６年生の女子児童と中学２年生の男女１名ずつの生徒を受入れ、昨年度からの継続者２名を含め、計５名でスタートします。
しま親及びハウスマスター、調理人のスタッフだけではなく、町民皆様のご理解とご協力のおかげで事業が成り立っていると思っています。今年度も、ふるさと留学生をよろしくお願いいたします。

お問い合わせ先：小値賀町教育委員会事務局　赤波江　0959-56-3838

囲　幹夫（ちかまる寮ハウスマスター）

今年も小値賀では別れと出会いの季節がやってきました。

新天地へ旅ゆく恩師の惜別に、小値賀の子供たちが集結して素晴らしい別れを見せてくれました。島外から移住してきた私には、これまで映像で見るだけの光景でしたが、盛大な旅立ちに映りました。

そして別れの季節が過ぎ、ちかまる寮では新留学生を迎えました。

留学生数人は時化による欠航を体験し、早速小値賀の洗礼を受けましたが、入寮式には入寮生全員が参加し、無事始業式にも参加できました。

その数日は教育委員会をはじめ、各ハウスマスターがはらはらしておりましたが、入寮式当日は、色とりどりの花壇の花たちが、寮生たちの門出を迎えてくれる一日になりました。

入寮式後の記念撮影（2023.4.6ちかまる寮にて）

ふるさと留学ってなんばしよっとね？ Vol.8
第4期ふるさと留学生を紹介します！

しま親型留学生として新小学６年女子児童が１名、入寮型留学生として新中学２年男子生徒１名、女子生徒１名の計３名が新しく留学生として仲間入りし、昨年度から継続した２名を含め、５名の留学生が小値賀での新生活をスタートさせました。しま親型留学生は浜津地区、入寮型留学生は笛吹在地区で、しま親さんやハウスマスター等の寮運営スタッフとともに過ごしています。

町民皆様におかれましては、離島の生活に憧れ、自分の力で頑張ろうと決意して来た留学生たちを、小値賀の子どもたちと同様に温かく見守っていただき、時には話しかけていただければ幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

しま親型留学生

小山（おやま）　るり

出　身	福岡県
学　年	小値賀小学校６年生
趣　味	読書
好きな教科	体育
頑張りたこと・やってみたいこと	自然と海を楽しみたい！

入寮型留学生

長谷川（はせがわ）　心晴（こはる）

出　身	埼玉県
学　年	小値賀中学校２年生
趣　味	甘いものを食べる・読書
好きな教科	社会
頑張りたこと・やってみたいこと	部活、海・自然などの色んなことや、人に関わること

入寮型留学生

用田（もちだ）　楓高（ふうこう）

出　身	東京都
学　年	小値賀中学校２年生
趣　味	絵を描くこと・紅茶を飲む
好きな教科	国語・美術
頑張りたこと・やってみたいこと	部活・勉強・海に行くこと

お問い合わせ先：小値賀町教育委員会事務局　赤波江　0959-56-3838

囲　幹夫（ちかまる寮ハウスマスター）

澄んだ陽光が輝く、五月晴れの日々になりました。

荒天に見舞われた五月連休を終えてから、すっかりと気温も上がってきて、もう初夏の姿がちらちらと見え隠れしています。

ゴールデンウイーク中は、紅茶が趣味の寮生が発案して、皆でクッキーやパンを作りました。また、子どもの日は、笛吹在地区からいただいたお菓子や、調理人さん手作りのハンバーガーで楽しいランチ会を開きました。こうした生活のひとつひとつに誰かの苦心が隠れている。そんなことを学ぶ日々であったかもしれません。

寮生たちは、職場体験や生徒総会など、机上では想像もつかない実際の仕事体験や、自分たちの意見と考えを討論するといった、一歩大人に近づく期間を過ごしています。

手作りハンバーガーに舌鼓

毎週日曜日の朝は寮生が清掃を行っています。

ふるさと留学ってなんばしよっとね？ Vol.9

『しま親』を募集します！

小値賀町ふるさと留学協議会（事務局：小値賀町教育委員会）では、小学５年生から高校生までのしま親型留学生を受け入れる「しま親」を募集しています。

小値賀町ふるさと留学は今年で４年目を迎え、年々問い合わせが増えてきています。中学生以上を受け入れる入寮型留学は、受入数に空きがありますが、しま親型留学においては、現在、しま親が１軒しかいないため、受入れが難しい状態です。児童生徒数を維持することは、小値賀の教育環境の維持・向上を図るうえでとても重要なことと考えています。また、北松西高校の存続にも繋がる大事な事業として進めていますので、少しでも関心のある方は教育委員会までお問い合わせください。

【しま親について】

活動形態：１年間の業務委託契約

活動概要：留学生が小値賀らしい生活を体験しながら、健全に養育できる環境を提供することが必要になります。

・生活全般における指導及び相談、支援

・学校や保護者との連携・情報共有

・学校行事の参加や留学生の地域活動への参加支援　等

委託料：１２０，０００円／月

※主に食費や光熱水費及び受入にかかる謝金相当分です。学校でかかる費用やおこづかいについては、留学生保護者負担です。

お問い合わせ先：小値賀町教育委員会事務局　赤波江　0959-56-3838

囲　幹夫（ちかまる寮ハウスマスター）

梅雨の季節を迎えました。
夏を思わせる陽光と、湿気を含んだ雲が交差しています。
昨年と比較し、幾分か雨量も少なく、風も涼しいような体感です。
小値賀ではメロンの収穫が始まっており、格別のメロンが食卓に並ぶことを、寮生だけでなく、移住者の私としても愉しみにしています。
小値賀の作物は大地の恵みであり、島民の汗の結実でもあります。
今年度、初めての農業体験をふるさと留学協議会会長と島民の方の協力のもと、実施することが出来ました。寮生だけではなく、しま親の留学生も参加してくれました。
作物の収穫を行い、自分たちでメニューを考え、皆で調理するという自主性が育まれた貴重な島暮らし体験でした。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

ふるさと留学ってなんばしよっとね？ Vol.10

小値賀らしい『島暮らし体験』とは

今年度初めての島暮らし体験として、ふるさと留学協議会会長発案のもと、町民の方の畑で「じゃがいも掘り体験」と収穫したじゃがいもを使った「料理体験」を行いました。
ふるさと留学協議会においては、小値賀町ならではの『島暮らし体験』を通して、小値賀の地域資源に触れ、小値賀の価値を感じてほしいと思っています。そして、この経験が留学生たちの学びと成長につながり、将来の「生きる力」になると考えています。
農作物収穫や魚釣りなど町民の方にとって身近なことが、留学生には大きな経験になります。留学生たちと何かやってみたい、体験させたいと考えていただける方がいましたら、担当者もしくはふるさと留学関係者にお声かけください！

お問い合わせ先：小値賀町教育委員会事務局　赤波江　0959-56-3838

囲　幹夫（ちかまる寮ハウスマスター）

小値賀島では晴天の日々が続きます。
今年の梅雨のうっとおしいさが洗い流されるようです。
それにしても梅雨の時期は蒸し暑かったですね。

紺碧の海には魚が集い、海面を撫でるように島風が吹いています。

夏場は暑いものですが、この島風のおかげで日課の自転車での島内一周が継続しています。留学生にも小値賀の夏の愉しさを満喫して欲しいと思い、7月17日の海の日にマリン体験を行いました。前日は風が強く、サップも難しいかもしれないとヒヤヒヤしましたが、インストラクターさんたちと仲良くビッグサップに乗船した留学生たちはとても楽しそうにしていました。初めての環境での生活や忙しかった1学期を小値賀の海で締めくくることができてよかったと感じています。

留学生の夏休みは帰省時期になっているので、今頃、実家で英気を養っているかと思います。それでも、帰省期間中にみんなで集まる予定を立てるほど、関係性も良くなっています。同級生や地域の方々、寮スタッフに支えられたことを忘れずに、2学期を元気に迎えてほしいものです。

ふるさと留学ってなんばしよっとね？ Vol.11
来年度の留学生募集が開始されました！

小値賀町ホームページにおいて、令和６年度受入のふるさと留学生の募集を行っています。

事業年数を重ねるごとに、問い合わせ数が増えてきており、全国的に離島留学が注目されていることを実感しています。「小値賀町ふるさと留学」も４年目を迎え、これまでの経験を分析し、活かしていくことで小値賀町でしかできない離島留学を進めていきたいと考えています。小値賀の教育や離島留学に興味があるお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひお声かけください！

留学生と小値賀の子どもたちがともに成長しあえる環境を創出し、守っていきたいと思います。

町民皆さまにも、ご協力いただくことがあるかと思いますので今後ともよろしくお願いします。

（令和５年度ふるさと留学生認定証交付式）

お問い合わせ先：小値賀町教育委員会事務局　赤波江　0959-56-3838

坂井　佳朋（ちかまる寮ハウスマスター）

皆様、はじめまして。大阪から来ました、坂井佳朋(さかい　よしとも)です。

ちかまる寮でハウスマスターをしております。よろしくお願いいたします。

私は、岐阜に生まれてから、京都、北海道、東京、大阪と引っ越しをし、さらに、強烈な広島弁を話す仲間に囲まれていましたので、私の話し言葉は、様々な方言から影響を受けています。大阪では「ニセモノ関西弁」と言われていましたが、全く気にしていません。むしろ「自分だけの言葉」として、誇りに思っています。これからも、長崎弁、小値賀弁などが加わり、さらにオリジナルの話し言葉に進化していけると考えると、とても楽しみです。いろいろ教えてください。

私は、この方言(なまり)が大好きなのですが、　残念なことに、どんどん消滅していっているらしいのです。その理由としては、鉄道、高速道路、飛行機など交通網が爆発的に広がり、国内での移動往来が活発になったことや、ラジオ、テレビ、インターネットが普及し、どこにいても誰でも標準語で伝えられる情報が手に入るようになったからだと言われています。便利さと引き換えに、地方の独自性、地域の面白みが消えてしまうということが、少し寂しく感じられます。

私は、テレビから聞こえてくる、当たり障りのない標準語ではなく、暖かさや熱を持った方言で会話したいと考えている、43歳、申年の人間です。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

炎熱ではありましたがよい夏でした。

留学生が実家に帰省した機会に信州へ出かけてきました。

以前住んでいた長崎市では、視界にいつも山並みが見え、すり鉢状の土地に鎮座して生活している印象です。その景色にも愛着があります。

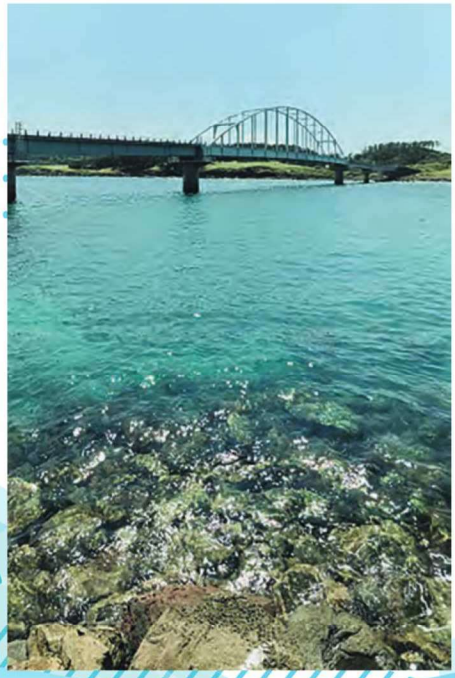
小値賀島に移住してからはほぼ毎日、海流に洗われる島を見つめてきましたが、屹立する岩峰や緑に覆われた山麓が見たいという渇望のもと、信州に辿り着きました。

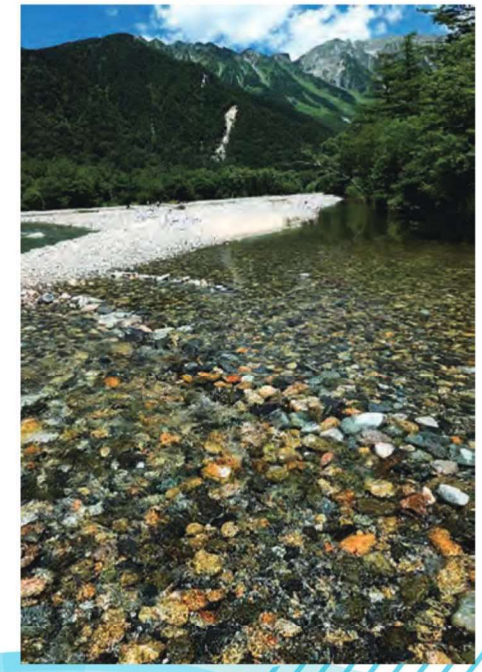
松本市内は猛暑の日々でしたが、山へ向かうにつれ、梓川の凄烈な冷たさと透明度、幾分と暑さが和らぐ上高地は別世界のようでした。

ひと時の旅を収束して再び島へと戻ってきて、日課の島内を自転車で回りますと、島ではまた紺碧の海、命を育む海が穏やかに島を包んでいます。帰ってきたという印象を抱きました。

淡水と海水ではありますが、どちらも水の透明度が素晴らしい。

都会では得られないこの自然の温かみを味わいに、留学生たちが帰島する日を指折り数えて待っていました。　　（地域おこし協力隊　囲）





目指すは優勝のみ!!

坂井　佳朋（ちかまる寮ハウスマスター）

9月9日の「ファミリーあじつり大会」に、ちかまる寮から2チームが参加しました。始めは、なかなかヒットせず「もーーー、全然釣れんやん!!」「また、ネンブツダイ!!鯵がいない!!」と言っていましたが、最後にはどちらのチームも600グラム以上釣り上げることが出来ました。目標としていた優勝には届きませんでしたが、しっかりと楽しめた様子が伝わってきました。

寮生の様子を見ていると、いつも学校で見ている先生が、普段と雰囲気が違うと感じたり、いつも話している友達と、いつもと違う時間帯(太陽が沈んだ18時～20時頃)におしゃべりをしたりして、日常の中にある非日常を楽しんでいるかのようでした。

私は、海無し県の岐阜で生まれたので、「鯵」はスーパーで買って食べるものでした。しかし今回は、小さいのが釣れたら「唐揚げにしかならんと」と声を掛けられ、寮に戻ってからは、さばき方を教わり、釣って、さばいて、食べるところまで体験することが出来ました。そうすることで、今までは「鮎」など、川魚が中心だった私の日常に、今回「鯵」が仲間入りして来てくれました。とても幸せな時間でした。笑っていただいた皆様、お手伝いいただいた皆様、ありがとうございました。

ふるさと留学ってなんばしよっとね？Vol.12

猛暑のあおりを受けた、今年の中高合同体育祭。
テントの中で観戦していた私も汗だくになるような炎天下の体育祭でしたが、それに負けずと寮生たちは、元気いっぱい頑張っていました。

翌日も晴天でしたが、風をはらんだ秋の始まりを思わせる陽気でした。
寮生からのお願いで「自分達でお弁当を作ってピクニックランチをしたい！」と。そのお弁当を持参で番岳に登りました。

また、９月９日に行われたファミリーアジ釣り大会にも、寮生たちから出場したいと要望があり、自発的に町のイベントに参加しました。
これまでは、ふるさと留学協議会やハウスマスターからの企画提案が主でしたが、今回は寮生たちの積極性とハウスマスターのちょっとしたサポートで、実現できたことに素晴らしい成長を感じました。
そんな、嬉しく今からが楽しみな２学期がスタートしました。　（ハウスマスター　囲　幹夫）

納島上陸計画進行中

坂井　佳朋（ハウスマスター）

現在寮内において、ある計画が進行中。その名も「納島上陸大作戦!!」この、いかにも古臭い昭和的な作戦名は、皆様ご想像の通り、昭和生まれの私が勝手に付けたのであって、平成に生まれた寮生が考えたものでは決してありません。

どのような計画かと言いますと、寮生3人で食事のメニューを考え、買出しをし、自炊をして、納島ハウスに一泊するというもの。先日は、スタッフの方に来て頂いて、詳しく説明をしてもらいました。寮生は具体的なイメージが湧いて気持ちが高ぶっている様子でした。 寮生が生活する小値賀島と、橋でつながっている斑島や黒島ではなく、スーパーも自動販売機も無い『離島の離島』である二次離島へ行くことは、小値賀町民であってもなかなか無い事だと聞きました。この作戦が無事成功することを祈るばかりです。

ふるさと留学ってなんばしよっとね？Vol.13

田　幹夫（ちかまる寮ハウスマスター）

いよいよ秋も深まってきました。

今年はコロナ自粛も開けて様々な催事が、3年振りとか4年振りというスパンで開催されています。

ちかまる寮の位置する笛吹在では、十五夜豆という行事があります。

元々は戦後の食糧不足の頃、収穫の季節に地域の子供たちが家々を回り、シイの実や蒸かし芋、豆などを柄杓でもらって周るという風習でした。

それを有志が復活させて地域の行事にされたとのことです。お話を聞いて、まさに小値賀版のハロウィンだなぁと思いました。

地域のひとつとして寮でもラスクを提供しています。

こうした地区の行事も小値賀の想い出として刻んで欲しいと思います。

そして10月半ばには六社大祭というお祭りも開催されました。

生粋の長崎市民である私は、実は寂しい思いを抱いていました。

長崎では、この時期はシャギリの音色に、踊町全体が包まれるのが日常だったのです。

六社大祭は長崎くんちにも似たお祭りです。

三日間とも町民が総出で楽しんでいるのを眺めていました。

お上り行列の中には、ちかまる寮のスタッフの姿がちらほらと見え、場を盛り上げています。お祭りというのは地域の担い手で、引き継いでいくのだと実感しました。

納島上陸大作戦、無事成功!!　坂井　佳朋（ハウスマスター）

10月28～29日の一泊二日で、寮生は、納島に行って来ました。納島ハウスのスタッフや島民の方々にお世話になり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

初日は、島内の散歩、夕食作り（ピーマンの肉詰めを作りました）、ハロウイン仮装パーティーをして楽しみ、翌日には、落花生の殻むき体験をさせて頂きました。

大変盛りだくさんの内容でしたが、帰って来た寮生からは「全部が楽しかった」「納島で暮らしたい」といった言葉が聞かれ、島に暮らす人と素晴らしい時間を共有出来た事が伝わってきました。

私たちスタッフには、寮生に対して、学校と寮の往復、ときどき島内散歩、、、だけでは感じられない『小値賀の魅力』を一つでも多く感じてもらいたいという思いがあります。島の人々とのかかわりの中で、感謝する気持ちを養い、自律した大人へと成長して欲しいという願いがあります。

これからも小値賀の生活に触れられる機会をたくさん作っていきたいと思っています。引き続き、これからも、よろしくお願い致します。

囲　幹夫（ちかまる寮ハウスマスター）

晴天の続く秋。それも毎日毎日温かく、過ごしやすい季節です。食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋。秋は色んなものにチャレンジできる日々でもあります。

寮生は島内の伝統的な行事に参加したり、二次離島である納島に寮生だけで宿泊体験したり、様々なチャレンジに挑戦しています。

そのチャレンジの白眉が学習発表会です。詳しくは「秘密」だったのですが、寮生たちは脚本に随分と悩み、台詞の暗記に苦慮していたので、とても心配していました。

それが杞憂に終わるくらい、中学2年生の劇は素晴らしかった。私は大学時代に映研にいて、脚本を書いたり自主映画を撮ったり、舞台で演じてみたりしていました。その視点からみて実に完成度の高い学習発表会でした。

あの劇から最後はミュージカル仕立て。最初のソロで歌う生徒の勇気はどれだけのものか!発表会が終わり、いいものを見させて貰ったと体育館を後にしたとき、ああこの学習発表会を見るのも3回目かと、感慨深く感じた一日でした。

大掃除　新たな気持ちで　スタートだ!!

坂井　佳朋（ハウスマスター）

皆さんの家では新年を迎えるにあたって、大掃除をされましたか?私は小さい頃、なんとなく面倒だなぁ、大掃除なんてしなくても年は越せるのになぁと感じていました。

ちかまる寮では、毎週日曜日の朝食後に、掃除の時間を設定しており、共有スペースのフロアー掃除や窓ふき、自室の整理整頓などを実施しています。それなのに、改めて『大掃除』をする意味は何なのか。子どもに聞かれたとき、しっかりと答えられるように、私なりに考えてみました。

小学校の授業では、大掃除のルーツは「煤払い（すすはらい）」にあると習いました。煤払いというのは単なる掃除ではなく、『年神様』を迎えるための神聖な清めの行事です。年神様は、各家々にやってきて新年を生きる力や福徳を授けてくれる神様で、この年神様を迎える前に家中を清めるのが大掃除というわけです。

また、祖母からは、大掃除にはいろいろなものを払ってケジメをつける意味があって、すっきり気持ちよく、新しい気持ちで新年を迎えられるようにするという意味があると言い聞かされてきました。

これからも、大掃除に限らず、おせち料理や、かんころ餅など、昔から受け伝えられてきた習慣や文化について、しっかりと受け伝えられるように、寮生と一緒になって経験しながら、学び続けていきたいと思います。

囲　幹夫（ちかまる寮ハウスマスター）

新年を迎え令和6年となりました。

旧年ではふるさと留学の寮生たちの大きな成長を実感してきました。なによりも島の生活に興味を持ち、いろんな行事に自ら参加できるようになったことです。従来の引っ込み思案であった彼らの成長ぶりに驚きます。

中学2年生という一番多感な時期を、親元を離れてこの島で生活する。

その生活には自律の厳しさが伴います。

本来ならば家族の誰かがやってくれる、洗濯、洗い物、片付けを全部自分の手でやらないといけません。我々ハウスマスターは、決して過度に手助けをせずに、ちゃんと自分の手で行えるように見守っています。

年末年始、寮生たちは各々実家に戻って、家族とのひと時に触れ、羽根を伸ばしてくつろいできたことと思います。そして地元の級友たちと会い、思い出に浸ってきたのではないでしょうか。

新学期が始まり、学校、寮生活と忙しい日々となりますが、地域の皆さまのご理解とサポートがあるからこそ、寮生たちも安心して勉学に向かっていると思います。

旧年と変わらぬご支援、ご指導をいただければ幸いです。本年もちかまる寮及び寮生をよろしくお願いいたします。

優しい鬼もいるよ「福は内、鬼は内」

坂井　佳朋（ちかまる寮ハウスマスター）

二月の伝統的行事と言えば「鬼は外、福は内!」と豆をまき、厄払いをして、その豆を年の数だけ食べて新しい年の無病息災を祈る、節分行事かと思います。この「鬼は外、福は内」という掛け声ですが、調べてみると「福は内、鬼は内」と言う地域があるそうです。また、投げる豆も、大豆ではなく落花生を投げる地域があり、さらに、節分の日に食べるものでは、恵方巻、けんちん汁、こんにゃくなど地域によって異なる特色があります。

また、お正月に食べる「お雑煮」も同様に、日本全国それぞれの地域や家庭によって多様な味付けで食べられています。私の実家の岐阜では、すまし汁に、もち菜(小松菜の仲間)とかつお節だけの、シンプルと言うか、見た目がさみしいお雑煮を食べてきました。反対に、妻の実家の仙台では、細かく切った人参や鶏肉、結び糸こんにゃく、みつば、なると等色とりどりの具材が盛り付けられ、とても華やかで驚きました。

進学就職転勤など、現代は昔に比べて引越しが多く、生まれ育った地域ではない場所で暮らしていく人が増えています。実際、私は関西から、寮生は関東からそれぞれ小値賀町にやってきました。新しい土地での生活の中で、今までと異なる言葉や文化、生活習慣に触れることができた時、今までの自分が知っていたことや、自分が経験してきたことが、「普通」で当たり前なことではなかったのだと気が付くことができました。

これからも寮生と一緒に、自分が経験したことの無い、小値賀の文化や風習を楽しみながら体験していきたいと思っています。

囲　幹夫（ちかまる寮ハウスマスター）

小値賀の冬もひと足早く緩みつつあり、あちらこちらで小梅の花が綻んでいます。

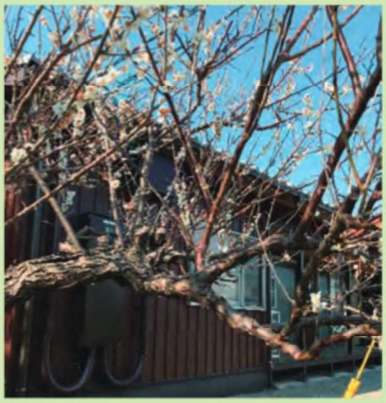
さて1月末には恒例の小中高合同のロードレース大会が開催されました。暖冬のために沿道で観戦する島民の皆様もよい日和だったと思います。

また2月初めには、節分の豆まきがありました。

ちかまる寮では、本気モードの鬼が襲来します。

むしろこのイベントは、寮内に留めておくには惜しいですね。

こうして季節の変わり目を日々実感しつつ、色づき始める小梅の蕾を愛でる日々です。



坂井　佳朋（ちかまる寮ハウスマスター）

先月のおぢか新聞2月号では、「小値賀町成人式～二十歳の集い～」に参加した、10名の希望に満ち溢れた笑顔が表紙を飾っていました。この「成人式」は、日本における伝統的な儀式の一つで、20歳になる成年に、大人としての自覚と責任を促すという大切な『節目』とされてきましたが、近年は、法律の上で「成年」とされる年齢や、選挙において投票できる年齢が18歳となり、また、社会全体の考え方や価値観が多様に複雑に変化してきたなかで、子どもから大人に成長する『節目』が、曖昧になってきたとも言われています。そんな今だからこそ、自立した大人へ向かう一つのステップとして、社会的な大人としての責任や振る舞いが期待される年齢であることを意識させるためにも、あらためてこのような『節目』の時間が大切で必要とされるのかもしれません。

人生の節目は、成人式だけでなく、結婚式、誕生日、出産、進学、就職などたくさんあります。現在の寮生が成長し、大切な人生の『節目』を迎えた時、小値賀で過ごした楽しい時間が、前に進む原動力になってくれたら良いと思っています。

囲　幹夫（ちかまる寮ハウスマスター）

梅の花が満開になり、朝のニュースなどでは花粉症という言葉が毎朝飛び交います。重症度の花粉症で毎春には辛い思いをしていました。

小値賀町の名前を初めて知ったのは「花粉症のない島」という報道でした。

三度目の春を迎えてそれが真実だと知りました。

全くの投薬もせずに、快適な日々を迎えています。

三月を迎えますと、島には寂しいながら華やかなイベントがあります。小値賀ターミナルでの旅立ちのひと時です。

これも私にとっては「映画で見たことある」という岸壁の光景で、遠ざかる汽笛と小さくなっていく船影を眺めていました。

離島留学生もあの岸壁に立って、送る側にも、いつかは送られる側になるのだなあと感慨深く思うのです。